東日本大震災　-現場からの報告-　より
広瀬敏通（ＲＱ市民災害救援センター）の報告

USTREAM イベント「EARTHING2011：ほんとうの震災を知ろう

2011 年４月２日＠慶応大学日吉校舎／主催 Think the Earth EARTHING2011 実行委員会

司会

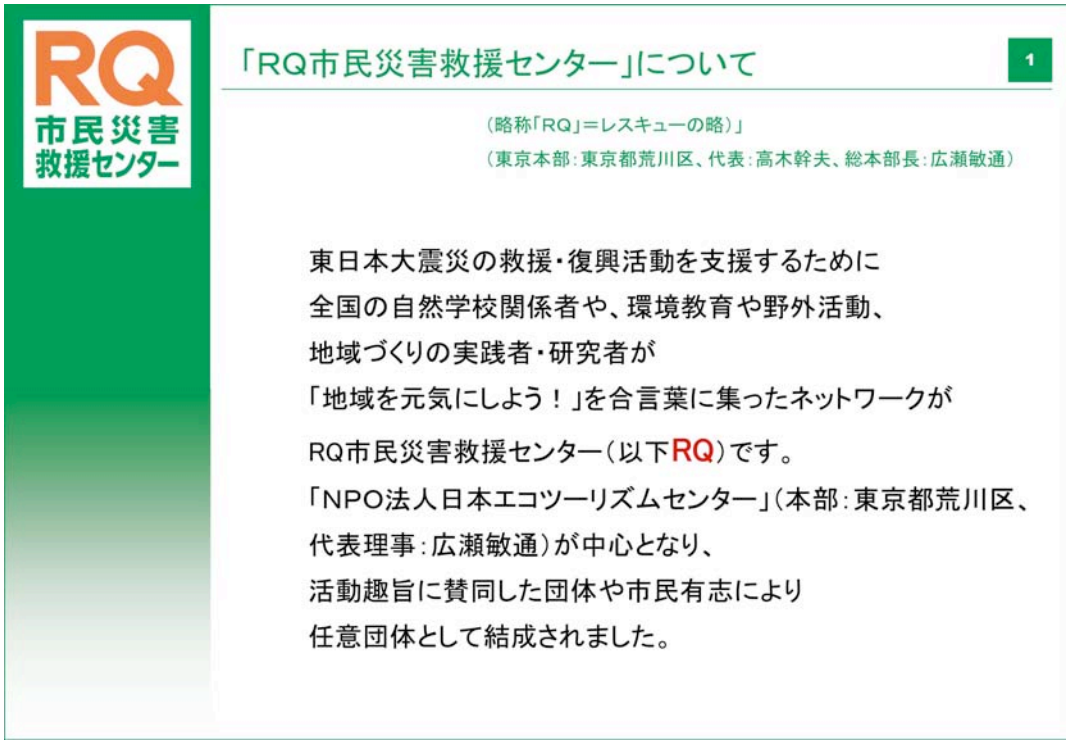
RQ 市民災害救援センターは、今回の震災を受けましてこれまでネットワークは持っていたけれども、急遽、集結組織したという団体です。では RQ 市民災害救援センターの広瀬さんから話を伺ってまいろうと思います。よろしくお願い致します。

広瀬氏

よろしくお願い致します。

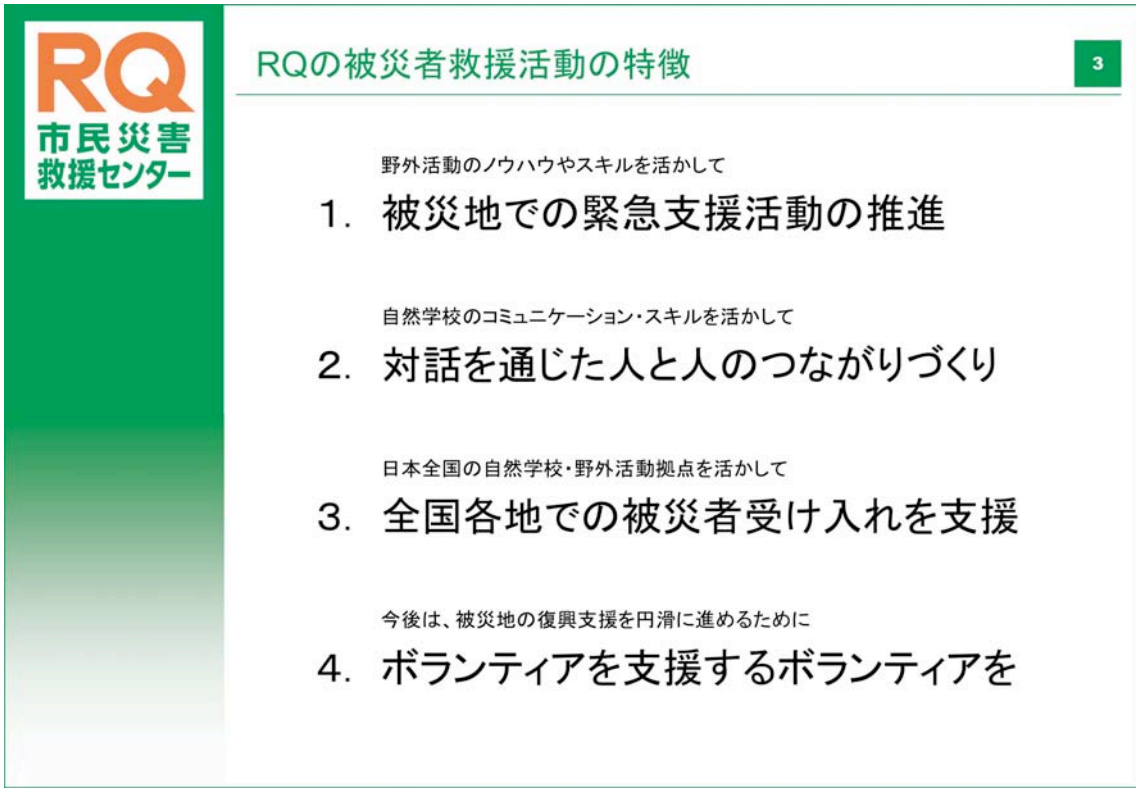
私たちは、今回の東日本大震災を受けて、3 月 13 日に急遽結成されました。これまで、私自身も含めて、例えばカンボジア難民の救援活動で一緒に仕事をした皆さんが、82 年に国際緊急援助隊をつくったわけですが、そうした活動や阪神淡路大震災、新潟県中越地震等の様々な震災に加わった仲間達がいます。我々は自然学校や野外活動のメンバーを中心としてネットワークを組んでいました。

今回は私自身が所属している日本エコツーリズムセンターを軸に活動を始めたんですが、途中から非常にたくさんの人、団体が加わってきて大きなネットワークとして活動しています。



私たちは最初に仙台に入りました。仙台は甚大な被災地ではありますが、交通の便も良く、すぐに救援活動ができるステージを持っているわけですが、まださらに北の方が救援が手薄だという情報を受けて、結果として女川地区から気仙沼地区までの沿岸 120 キロをカバーす

るというような体制をとって活動を開始しました。
現在は登米という地区を“要”としています。宮城県北部の被災地を全て 1 時間から 1 時間ちょっとでカバーできる距離にあります。そこの小学校を中継拠点として、そこに常時 60 人程の RQ ボランティアのみなさん、それから地元の住民のボランティアのみなさんと一緒になって活動しています。この 120 キロ圏内の小さな非難場所、避難所に指定されていない所に非難されている方がたくさんいらっしゃるわけですね。そういう所を口コミで聞きつけて援助を行うと、そういう活動を展開しています。



私たちの活動の特徴としては、これまでは阪神や中越等の震災は局地的な災害でしたので、物資支援というよりは直接入って被災地被災者のケアを行うという活動が多かったわけですが、今回は大変広域的であるということと、ことごとく破壊されていて、物資さえままならない、そういう状況の中で緊急支援を物資支援ということで取り組み、モンベルさんなんかを中心として集まってくるアウトドア義援等を物資として届ける、そういう活動を最初に行いました。その時に物資をただ置いてくるだけではなくて、必ず被災者の方に声をかけあって、何に困っているのか、どういう状況なのか話を伺いながら物資を渡す。結構手間のかかることなんですが、これをマメに行ってきました。
現在色々なネットワークの仲間が被災者の方を受け入れるという体制をとって、すでに活動を始めています。各地の自然学校などが、実際に受入を開始しています。また我々はボランティアのためのボランティアという活動も非常に強めていまして、現地に行っている RQ だ

けではない様々なボランティアを支援できる体制をとっていこうとやっております。

RQ 市民災害救援センター

全国各地での被災者受け入れ表明団体（4/2現在）

4

RQ 市民災害救援センター

RQのこれまでの活動

5

1）調査・初動

3月13日（日）　広瀬敏通とNPO法人日本エコツーリズムセンターのメンバーが現地調査。

3月17日（木）　東京・西日暮里のNPO法人日本エコツーリズムセンターで第1回RQ会議（約60名参加）。活動を本格化する。

3月18日（金）　現地に入り、仙台に仮本部設置。以後、山形県天童市、宮城県登米市と本部を移動。

3月24日（木）　第2回RQ会議（約90名参加）

3月17日（木）第1回RQ会議

宮城県登米市・RQ現地本部

RQ 市民災害救援センター

RQのこれまでの活動

6

2）支援物資の配布

3月19日(土)　山形県天童市にアウトドア義援隊（株式会社モンベルの災害支援ボランティア組織）と連携して支援物資の物流拠点を設営。被災地への配布と調整をRQが担当。

3月20日(日)　石巻以北～気仙沼地域で支援物資配布開始

3月31日現在　延べ140トンを被災地約60箇所に配布

3）被災の最前線で調査と諸活動開始

3月21日(月)　宮城県登米市東和町の旧鱒淵小学校（廃校）にRQ現地本部を設営。

現在では女川から大船渡間約120kmの沿岸地域をカバーする諸活動を展開中。

3月31日現在、現地本部のボランティア、延べ790人

初動段階から既に 3 週間たっている状況で、3 月 31 日現在、延べ 140 トンに及ぶ物資をおよそ 60 箇所程に連日配布を行っております。登米の本部からピストン輸送で二十数台の車で活動しております。女川から気仙沼までカバーしていたんですが、現在岩手県の大船渡まで行っておりまして、さらにそこから北の釜石や大槌町まで。遠野にベースを置いて我々の仲間が活動しています。北の方に手を伸ばしている最中です。現在まで延べ 790 人のボランティアが現地で活動しています。

RQ 市民災害救援センター

RQのこれまでの活動

7

4）「RQボランティアセンター」の運営

3月31日(水) RQボランティアセンター第一号を、気仙沼市の唐桑地区に設営。

順次、女川町、石巻市、南三陸町、陸前高田市、大船渡市、遠野市、の各地区に設営予定。

5）被災者の受け入れ支援

全国各地の地域に根ざす自然学校が、居住場所だけでなく、心のケアやつながりを含めた中長期の受け入れ体制を準備し始める。

3月21日(月) 山梨県財団法人キープ協会にて、福島県郡山市より9世帯43人の被災者受け入れ開始。

長野県泰阜村グリーンウッドにて受け入れを開始し、新潟県南魚沼市エコプラスほか十数か所で準備中。

こうした私たちの物資支援が行われる中で、色々なニーズも拾い上げてきているわけなですが、それに応えるように被災地にコンテナ型やその他残ってる建物を使ってボランティアセンターを設置し始めております。無事に残ってる建物は被災地の方が入られてまして、それを占領するわけにはいきませんので、コンテナを手配しながら進めております。

被災者の方々は、何と言いますか、被災され今自分が置かれている状況を見られることを“恥”と思う部分があるわけですね。それと同時に未曾有の体験をしたことを何とか伝えていきたい、話したいという思いも強くあります。そういうまだまだ混乱している状況があるわけなんですが、今後そういう方々が段々と沈潜していくような、自分の置かれた状況の悲惨さを客観的に見るような時期になると、大変精神的に厳しい状況になるのではないか、そういう方々を私たちが身近な位置で支えてあげることが重要だろうと考えておりまして、ボランティアセンターを現地に、他の NGO の人たちとも相談しながら、女川以北に 30 箇所くらいは設置するような形をとっていきたい。細かなボランティアセンターをやっていきたいと思っております。

RQ
市民災害
救援センター

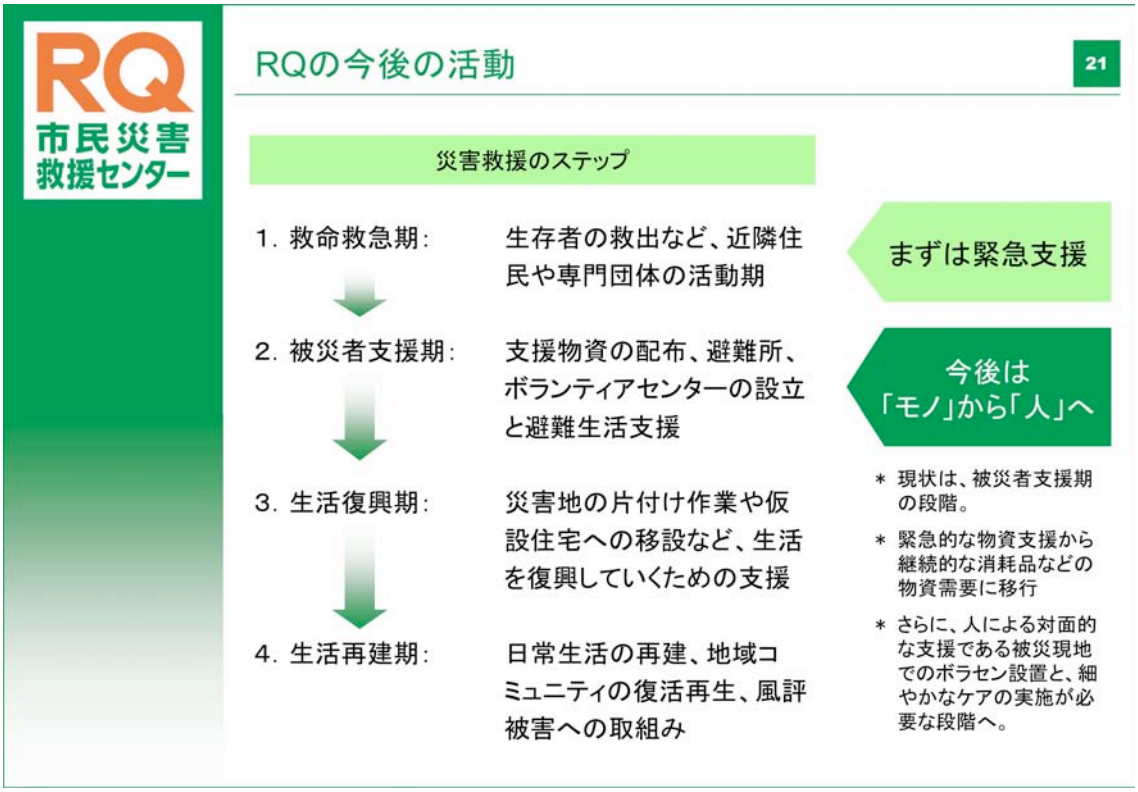
3月17日　救援会議開催（日本エコツーリズムセンター西日暮里）

中学生もボランティアで参加してくれていて、一昨日は離任式が終わってから学生服で駆けつけてくれていました。

被災した方々への聞き取り調査、記録も今行っている所です。

私たちは小学校の体育館をベースにしているのですが、（上記写真左下）トイレのように見えますが、突貫の温水シャワーブースを避難所に設置したり、温泉バスやカフェ等様々な活動を展開しています。こうした活動の全体をウェブサイトで公開しています、是非ご覧になっていただきたいと思います。

たくさんの物資をお届けしたのはいいのですが、物資は緊急支援なんですね。いつまでも届けるものではない。地域の経済が復興するのに合わせて私たちは、支援の形を多様に持っていく必要があるだろう。



そういう中でこれから私たちがもっとも力を入れていきたいのは、ボランティアの人たちを１人でも多く被災地に送り届けるという活動です。ただ「物見遊山にいくような連中を入れてどうするんだ」という批判もあるかと思いますが、日本のように多くの災害にみまわれる国において、被災地に行くことで何ができるのか、もし災害が起きた時にどういう行動をとればいいのか、色々と学ぶことができます。これは現地でこそ学べることですね。そこで多くのことを学んだスタッフがまた新たな活動を始めていきます。それを見てきていますので、１人でも多くの人を被災地に送り込みたい。その人たちが被災者の方から直接お話しを伺う、あるいはボランティアの人たちがどのような活動をしているのか、またなぜしているのか、そのようなことを学ぶ、そのような活動をどんどん強めていきたいと思いますし、私はこれを災害教育と呼んで、もう少し落ち着いたら被災地の方へ修学旅行もどんどん行ってもらうことも必要だろうと考えています。

被災地を被災地として見るのではなく、また生産物が放射能に汚染されているから買えないとか、あまり触れたくないとか、そういう意識がまだまだ一般の人の中にあると思います。そういうのを払拭して、日本人全体で支えていくためにはまず被災現場に立って見てもらう。

どんな方でも色んな事ができるわけですね。体力だけではありませんので。多様さをいかした多様な取り組みをこまやかに被災現場で作ってやっていきたいと思ってまして、そのための取り組みを今進めているところです。是非様々な団体の皆さんと、活動の多様性の構築とどのように運用すれば効果的か、そういう仕組みをみなさんと協力しながら作っていきたいと考えております。よろしくお願い致します。

司会
広瀬さんありがとうございました。
日本という災害の多い国に生きるものとして、実際に災害現場を体験しておくべきというお話しがありましたが、それは実際に阪神等のボランティアに参加した人を見てきたからですか？それとも海外ではそういう考え方があるのでしょうか？
広瀬氏
私は自然学校を 30 年ほど前からやっているんですが、自然学校の活動のスキルはですね、例えばコミュニケーションスキルやアウトドアスキル含めて、こういった非常時に大変役立つということを体験的にとても感じています。海外の自然学校や野外教育の団体がこうした非常時に制度的に取り組むという姿勢もありますし、日本でも阪神淡路大震災以来我々の仲間がネットワークを組んで常に現場に立つということをやっています。
また災害教育という言葉を一緒に共有してやっていければいいなと思っています。

司会
そうですね。
「災害教育」という言葉はまだまだ根付いてないような気がしますね。これを機会に是非と思います。
広瀬氏
自治体で養成されている災害コーディネーターの方たくさんいらっしゃるんですが、現場で学ぶ機会はとても少ないので、是非いらしていただきたいと思いますね。

.....

RQ 市民災害救援センター
WEB　http://www.rq-center.net
Twitter　@rqcenter
＊少人数で事務局を運営しています。電話でのお問い合せについては、ご配慮をお願いします。